

中学校区におけるめざす子ども像 豊かな心を持ち、自分の良さを知り、人とつながり協働する子

堺市立南八下小学校
校長 木嶋 美雪

2023年度 重点目標 ○自己調整力の育成 ・自ら学びをデザインし主体性を持って参加できる教育活動	・自分も他者も尊重し自主的に人と関わる行動ができる
---	---------------------------

確かな学びの現状 令和3年度よりICTを効果的に活用する授業作りを進め、令和4年度は、「主体的に問題解決にあたる児童の育成」に重点を置いて授業改善を行った。令和4年度のすくすくウォッチの学力テストでは、教科横断型のわくわく問題において全体的な学力の底上げが図られていると同時に、特に中低位層の人数が減少し、上位集団へ移行している様子が見て取れた。しかしながら、学力は向上しているが、CBT調査の児童アンケートにおける主体的に学習する態度の質問項目において、4、5、6年ともに前年度より低下がみられた。その結果を踏まえて、本年度は児童が自ら学びを探究できるようになるために、自己調整力の育成を重点目標とする。	豊かな心・健やかな体の現状 授業改革が進み、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果では、体育の授業が楽しいと答えた児童は男女ともに80%近くで平均より高い。しかし、ほとんどの学年で反復横跳びの記録が堺市平均より低くなっている。自分の体力の状況を踏まえ、体力向上を試みる取組を行っている。 「近所の人にあった時は挨拶をしていますか」CBT調査では肯定率が85%を上回っているが、地域への興味参画意識は低い傾向にある。自己肯定感を高め、ひとりひとりの人権を大切にし個性を生かした集団づくりが必要だと考える。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	学力向上	学習への取り組み方の課題を分析し、児童の自己調整力を育成する。	児童が自身の学びの過程や変容を自覚できる仕組み(ふりかえり・家庭学習・ルーブリック)を検討し、児童の自己調整力の向上をめざす。	主体的に学習する態度の質問項目の肯定的な回答の増加	CBT調査アンケート	年度末	11月	全国学力調査の結果、主体的に学習する態度の質問において、向上したとの回答数が昨年より20%増	◎	・単元の中で自身の学びの過程や変容を自覚できる児童は増えてきていることから、自己調整力が着々と養われている様子が見られた。 ・児童の学び方にも変化が現れ自主的に取り組む姿も増えてきた。	◎	・短期的な自己調整だけではなく、自分の将来のキャリアやなど長期目標に向かって日々の教育も編成がなされるとありがたい。
	授業改善	問題解決的な学習を通して、自身の学びの過程や変容を自覚し、次の学びに活かすことのできる児童を育成する。 粘り強い取り組みのなかで、自らの学習を調整しようとする児童を育成する。	★研究授業、公開授業に取り組み、問題解決的な授業づくりをする。	授業検討会、研修により、授業の見直しを行い改善していく。	実践報告 日々の授業の様子	年度末	11月	各学年1回の校内研究授業を実施。問題解決型学習の実現に向けて自己調整力を養うために授業改善をしている。問いのある授業から振り返りまで、全学年で取り組んでいる。 研究授業以外、どの教科でも実施できるようさらに研究を進める。 アンケートについては、12月に実施予定。	◎	・研究授業を実施するたびに授業内容が改善されていくことを実感。子どもたちの様子の変化が職員の原動力にもなっている。 ・学び方を選択できる児童も増えてきている。 ・アンケートについては、年度末に実施し1学期との変化を見る予定。(現時点では未実施)	◎	・働き方改革と、発展的な学習とのバランスをどのようにしていくのかは気になる部分。 ・自分で取りに行く情報を扱った活動だけではなく、新聞など与えられる情報にも触れる機会を持ち、視野を広げていけるといい。
			問いと見通しのある授業づくりに取り組み、ふりかえりを検証し、授業を改善・デザインしていく。	「どの方法が、自分にあった勉強の仕方か考えていますか。」の質問に対して85%以上	質問紙の検証	年度末	11月					
豊かな心・健やかな体	心の教育	豊かな人権感覚の育成と特別支援教育の充実を図る。	●挨拶指導の徹底 挨拶をすることを通年の目標にし、生徒指導・児童会であいさつの取り組みを進める。	あいさつの大切さについての指導、あいさつ運動、キャンペーンの実施	取組の検証 学校アンケート	年度末	11月	コロナ禍で中止していたあいさつの日を再開し、地域の厚生保護女性会の方や、PTA役員の方にも定期的にきていただいている。また、生活指導担当より、朝の会にてあいさつの大切さについて話をする機会を設けている。	○	・年間を通してあいさつの日などの啓発活動を実施。学校アンケートにて肯定的回答が高学年90%に対し低学年が79%。来年度に向けて要改善。 ・自己肯定感についても個人差や学年の特徴もあるが、全体的に肯定的な回答が多い。授業の中でも他者の良さについて考える場面が増えてきている。	◎	・運転中、横断歩道で止まったら、渡り終わった低学年の児童が立ち止まってあいさつをしてくれたことがあった。日常的にあいさつが積極的に行える児童の姿は素晴らしい。 ・人権教育や道徳の授業で、社明運動の入選作文をぜひ活用してほしい。
	個に応じた指導により成就感・達成感を得られるようにし、自己肯定感を高める。		「自分にはよいところがある」の質問に対して85%以上	質問紙の検証	年度末	11月	学力調査にて「自分には良いところがある」と回答した児童は91.8%で、自己肯定感が高いと感じている児童もいる。	◎				
	体力向上	心身の健康の保持と体力の向上を図る。	自分の課題に気づき、それを克服するための練習方法を実践することで、自己調整力の向上をめざす。	体育の授業の最後に学習したことを振り返る活動があることで「できたりわかったりすることがあるか」で肯定的な評価が85%以上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	年度末	11月	全国体力・運動能力、運動習慣等調査より、男子は肯定的意見が85.7%、女子は77.8%だった。	○	・コロナ禍で低下した体力を戻しつつ、ケガを回避し安全に過ごすことを優先とした1年。 ・体育の授業では動画などを活用し、自分の姿を振り返ることができ、技術向上につなげる姿がみられた。	○	学校アンケートの朝ごはんの項目について、「食べていない」回答が8%いることに驚きを隠せない。仕組みとして何かできることはないかと感じる。
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域の中にある学校として、地域人材の力を借りながら中学校区全体として地域とのつながりを深める。	★中学校区内での授業研究や授業交流の実施、および合同研修を通して、相互理解を深める	各学期に南八下中学校や八下西小学校との交流1回程度	実施報告	年度末	11月	夏の3校合同研修、授業研究会への参加、フリー参観日への参加など、交流の機会は増。管理職だけではなく、教務も定期的に情報交換をしていることも3校連携の鍵となっている。 HPだけではなく、Tetoruにて容易に情報発信ができるようになった。学校HPの更新頻度を上げたこと、GIGA委員会によるHPで児童からの発信もあり、より学校の様子を理解していただけるようになった。数値についてはアンケート結果待ち。 地域のお祭りへの参加、町探検、芋ほりなどで地域の多くの方々のお世話になっている。これから、普遊びや餅つきなども実施予定。	○	・中学校区内の連携については、本年度の情報交換から、来年度は物理的に交流を深めていく方向。 ・情報発信については、学校教育自己診断アンケートの回答にて95%。HPの閲覧数だけではなく、Tetoruの活用率も9割以上になり、情報が得やすい状況になった。 ・月1度のあいさつの日の他に、校区探検、もちつき、普遊びなどで地域の方々にお世話になった。さらに、5年生の総合活動による防災の取り組みで、ポスターを作ったり、防災訓練に参加させていただく機会があった。来年度に向けて、より一層関りを強めたい。	◎	・5年生の防災教育と連携した地域の防災訓練のためのポスター、体育館への掲示物、啓発動画の作成は素晴らしい取り組みだった。ぜひ地域会館や区役所にも掲示したい。また、地域会館で行うイベント時に子どもたちも参加する機会があるとありがたい。
			ホームページを中心とした情報発信の継続、充実させる。	学校教育自己診断アンケートの回答で、90%以上	学校アンケート	年度末	11月					
			●地域人材を積極的に活用し、地域とともに歩む学校づくりを進める。	地域人材活用数・地域とのかかわりの増加	実践報告	年度末	11月					

校長より(年度末) 急速な時代の変化とともに学び方が変わりつつある中で、養うべき資質・能力を身に付けるための学校改革が求められている。教育現場の環境整備、指導者である職員の意識改革と授業力向上、そして保護者や地域など、学校を取り巻く社会による学校の変化に対する理解と教育への協力がより必要となる。学習者のモデルとして職員が学び続けることができる労働環境を整え、授業の充実を核とした学校経営を目指していく。更に、これからの時代、より一層必要とされる道徳感についても、教育活動と学校内外での多様な人たちとの関わりの中で児童が試行錯誤しながら成長し、職員は児童にとって善き伴走者になれるように研修を進めていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 2、3学期の給食費が無償化されたことによる負担削減はよかった。環境改善に向けて必要なことは提案してほしい。地域全体として、人口減少が今後の課題。町内の人口バランスにより、数年後には激減する可能性がある。また、南八下小学校に近いのに学区の関係で他の学校に通う家庭もあつたり、八下西小学校の児童数の変化などの状況も踏まえ、今後は柔軟な学区調整が必要なのではないか。
---	---